

知っていますか?

緑色なのに「青信号」?!

日本では、信号が緑色なのに「青信号」と言います。これは、日本に初めて信号ができたとき、新聞で「青信号」と書かれたことが広まり、今でもそのまま使われているからだそうです。じつは、信号だけでなく、日本では昔から緑色のものを「青」と呼ぶことがよくあります。たとえば、青菜(緑の野菜)、青虫、青りんご、青のり、青汁など。外国人学習者からも「緑色なのに、なぜ日本では「青」と言うの?」と聞かれることもたびたびです。

どうしてそうなるのか...昔の日本語には「緑」という言葉がなく、「赤」と「青」だけで色を分けていて、「緑」は「青」の仲間として考えられていたからだそうです。(※「白」「黒」は色ではなく明るさをいう言葉でした)のちに「緑」という言葉ができましたが、古からの習慣が残っているため、今でも緑色のものを「青」と呼ぶようです。



Smile Project 「生活ガイダンス」11月30日(日) 10:00-12:00
場所:霧が丘ケアプラザ



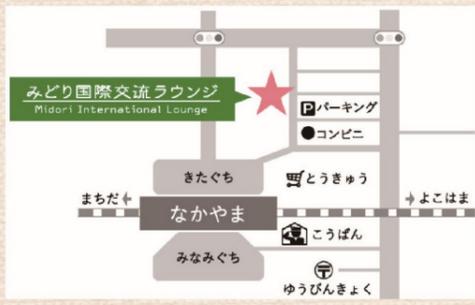
「外国人と日本人が気持ち良く近所付き合いができるようになるためにできることは何だろうか?」を考えて始めたこの企画。日本人住民の近所付き合いも希薄になってきている中、外国人住民に自治会文化や地域活動の大切さを伝えることができるかが課題です。大震災など災害時、地域で相互扶助の機会が訪れます。自治会をはじめとした地域ネットワークを通して、生きる

ために必要なサービスが必要な人たちに届きます。いざという時のためにも、普段から気持ち良い近所付き合いを心がけたいものです。霧が丘に長く住むインド人住民の皆さんとタッグを組み、ごみ分別や粗大ごみの出し方、集合住宅での生活マナー、防災講座、防災食コンテストを行いました。災害時に限られた資源で作ることができ、美味しい料理をみんなに食べていただきました。レシピはみどり国際交流ラウンジのHPに上がっていますので、ご覧ください。

発行:みどり国際交流ラウンジ
横浜市緑区中山1丁目6-15
パームビュービル5階
TEL: 045-532-3548
FAX: 045-532-3549
Mail: info@midori-lounge.com
開館時間: 9:30~18:00
(水曜日 9:30~21:00)
休館日: 日曜日、祝日



ラウンジ公式LINE
イベントの情報などお知らせします



みどり国際交流ラウンジは、横浜市緑区の委託を受けて NPO法人みどり多文化共創の会が運営しています。



あっ! こんちかくに外国が。

2026年
3月発行

vol. 16

みどり国際交流ラウンジ News

リレートーク

色々な国の人々が緑区で暮らしに馴染めるようなイベントや講座をお知らせします!

ミャンマーの内戦を逃れ家族を支えるために介護士に!



©MoreREJOB

母国ミャンマーで日本語と介護の基本を学び、技能実習生として2023年に来日したトゥーン・レ・シユエ・イー・ウーさん。これから日本でどんなことをしたいのかを伺いました。

現在、社会福祉法人 緑樹会で介護士として働いているトゥーンさん。母国では「大学を卒業してから、日本で出版された雑誌の記事をミャンマー語に翻訳する仕事をしていました。ずっと続けたかったのですが内戦が始まり仕事がなくなってしまいました」。学生時代から家計を支えていたトゥーン

さんは、技能実習生になることを決めました。「以前から日本のアニメや映画が大好きで、もっと日本のことを知りたいと思っていました。それにずっと母と祖父母と生活していたので、お年寄りの世話に慣れていたこともあります。この経験はきっと役立つと思って介護の仕事を選びました」。

来日から3年経ち、日本での生活も慣れてきたとか。「休みの日は近くの観光名所へ出かけます。先日も東京大学のキャンパスへ行って来ました。行き方が分からないときは電車で隣に座った人に聞くこともあります(笑)。日本語はたくさん会話をしないと覚えられません」。

トゥーンさんの夢は、母国に残した家族を呼び寄せること。「介護の実務者研修を受けました。ゆくゆくは介護福祉士の資格を取りたいです。日本語能力試験(JLPT)のN2も取りたいので勉強しています」。トゥーンさんが働いている施設でも、彼女を応援してくれているとか。「『頑張れば何でもできるよ。できないことはないよ。』と言ってくれます」。トゥーンさんの頑張りは続きます。





にほんごきょうしつ みどりく
日本語教室 @ 緑区 におじゃましませす!

みどりく れきし ねん そうせつ
緑区でいちばん歴史のある1991年の創設
にほんごきょうしつ はくさんちく かよう
~ミリア日本語教室(白山地区センター/火曜)~

Midoriku Ladies International Associationの頭文字から命名された「ミリア」。最初は女性メンバーだけで運営されていたそう。「楽しくなければ勉強は続けられません。『通い続けたい』、『もっと話したい』と思える雰囲気大切にしています」。かつては料理教室やピクニックなどイベントも開催。

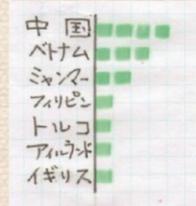


かいちやう おがわふみえ
会長 小川富美恵さん

やオ ホンジュン(男性)さん
とボランティアのみなさん。



がくしゅうしゃ
学習者はアジアを
ちゆうしん くに
中心に7か国から



ボランティアは
ぜんいんじよせい
全員女性



ふくかいちやう いわねみちこ
副会長 岩根道子さん



チョウ ボジュン
さん
らいにち ねん
来日して5年。
「知りたいことを
わかりやすく説明
してくれます」。



リュウ シュビさん
「N1 を持っていま
すが会話が難しく
て。ここで会話を
勉強しています」。

副会長 岩根道子さん
創設メンバーのおひとり。
「外国の文化や習慣に触
れ、いい刺激になります」。



たぶんかきょうせい
多文化共生かるたは
ラウンジHPから
ダウンロードできます

これから日本語を学びたい人に『にほんご入門クラス』開催!

日本に来たばかりの人、日本にずっと住んでいるけれど日本語が分からない人にお勧めしたいのが『にほんご入門クラス』(全8回/3,000円)。毎週月曜日(祝日を除く)10:00~11:30、みどり国際交流ラウンジで開催しています。ひらがなとカタカナの書き方と読み方、挨拶や買い物など普通の生活に必要な言葉を勉強します。すぐ使える言葉ばかりなので、「勉強するのが楽しい」と受講生にも好評です。2022年から始まった入門クラスの修了生には、フィリピン、インド、中国、インドネシア、イギリス、モンゴルなどたくさんの国の人たちがいます。入門クラスを担当する講師たちも、「新しいことを始めるのに年齢は関係ありません」、「日本語をまったく話せない人でも大丈夫です。みんなで楽しく勉強しましょう」と、意気込みを語ってくれました。

くわしくはこちらから!



ブラジル友好130周年記念
「ブラジルのこどもとつながろう!」

地球の裏側のブラジルのサン・マッセリーノ小中学校と緑区の上山小学校が「わたしのゆめ」をテーマに絵画交流を行いました。地域のこどもたちが外国のこどもたちと交流することで、夢や希望、感じ方の違いを知り、心の成長につながります。この交流を通して、異文化を身近に感じ、国際理解を深める事が目的です。この活動を通じて、地域の大人にもその大切さを伝えます。本事業は、みどり国際交流ラウンジがコーディネートし、ブラジル大使館より日本ブラジル友好130周年記念事業として認められました。



目から
うろこ

「はつくしよん!日本で花粉症になっちゃった」

『多文化共生かるた<生活習慣編>』より

花粉症は「日本の国民病」とも呼ばれていますが、日本だけでなく世界中にあるそうです。ただし、原因になる植物は国や地域によってさまざま。日本では春に飛ぶスギ花粉が代表的です。毎年多くの人が目のかゆみや鼻水に悩まされ、日本に住む外国人も例外ではありません。日本語教室の学習者の中には「日本に来てから花粉症になった」という人が何人もいました。海外に目を向けると、ハワイやグアムにはマンゴーの花粉で症状が出る「マンゴー花粉症」というのが有るそう。国が違えば原因となる植物も違いますが、花粉症のつらさは世界共通なのかもしれません。

※『多文化共生かるた』ラウンジ HP(ラウンジについて)からダウンロードできます